

外国通貨又は旅行小切手の売買に係る疑わしい取引の参考事例（新旧対照表）

現 行	改 定 後
<p style="text-align: center;">外国通貨又は旅行小切手の売買に係る疑わしい取引の参考事例</p> <p><u>(1) 全般的な注意</u></p> <p>以下の事例は、両替業者が<u>法第8条</u>に規定する疑わしい取引の届出義務を履行するに当たり、疑わしい取引に該当する可能性のある取引として特に注意を払うべき取引の類型を例示したものであり、個別具体的な取引が疑わしい取引に該当するか否かについては、顧客の属性、取引時の状況その他両替業者の保有している当該取引に係る具体的な情報を<u>総合的に</u>勘案して両替業者において判断する必要がある。</p> <p>（以下略）</p> <p><u>(2) 取引金額</u></p> <p>①（略）</p> <p>②（略）</p> <p><u>(3) 取引頻度</u></p> <p>（略）</p>	<p style="text-align: center;">外国通貨又は旅行小切手の売買に係る疑わしい取引の参考事例</p> <p><u>1. 全般的な注意</u></p> <p>以下の事例は、両替業者が<u>犯罪による収益の移転防止に関する法律第8条</u>に規定する疑わしい取引の届出義務を履行するに当たり、疑わしい取引に該当する可能性のある取引として特に注意を払うべき取引の類型を例示したものであり、個別具体的な取引が疑わしい取引に該当するか否かについては、顧客の属性、取引時の状況その他両替業者の保有している当該取引に係る具体的な情報を<u>最新の情報に保ちながら総合的に</u>勘案して両替業者において判断する必要がある。</p> <p>（以下略）</p> <p><u>2. 取引金額</u></p> <p><u>(1)</u>（略）</p> <p><u>(2)</u>（略）</p> <p><u>3. 取引頻度</u></p> <p>（略）</p>

現 行	改 定 後
<p><u>(4) 真の取引者の隠匿</u></p> <p>① (略)</p> <p>② (略)</p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(5) 取引時確認への対応</u></p> <p>① (略)</p> <p><u>(i)</u> (略)</p> <p><u>(ii)</u> (略)</p> <p><u>(iii)</u> (略)</p> <p><u>(新設)</u></p>	<p><u>4. 真の取引者の隠匿</u></p> <p><u>(1)</u> (略)</p> <p><u>(2)</u> (略)</p> <p><u>(3) 合理的な理由もなく、住所と異なる連絡先に外貨の宅配を希望する顧客との取引。</u></p> <p><u>(4) 名義・住所共に異なる顧客による取引にもかかわらず、同一のIPアドレスからアクセスされている取引。</u></p> <p><u>(5) IPアドレスの追跡を困難にした取引。</u></p> <p><u>(6) 取引時確認で取得した住所と操作している電子計算機のIPアドレス等と異なる顧客との取引。</u></p> <p><u>(7) 同一の携帯電話番号が複数の顧客の連絡先として申告されている場合。</u></p> <p><u>5. 取引時確認への対応</u></p> <p><u>(1)</u> (略)</p> <p>① (略)</p> <p>② (略)</p> <p>③ (略)</p> <p><u>④ 取引時確認が完了する前に両替取引が行われたにもかかわらず、顧客が非協力的で取引時確認が完了できない取引。例えば、後日提出されること</u></p>

現 行	改 定 後
<p>② (略)</p> <p>③ (略)</p> <p><u>(6) 偽造通貨等</u> (略)</p> <p><u>(7) その他</u> ① (略) ② (略) ③ (略) ④ (略) ⑤ (略) ⑥ (略) <u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p>	<p><u>になっていた取引時確認に係る書類が提出されない場合。代理人が非協力的な場合も同様とする。</u></p> <p><u>(2) (略)</u></p> <p><u>(3) (略)</u></p> <p><u>6. 偽造通貨等</u> (略)</p> <p><u>7. その他</u> <u>(1) (略)</u> <u>(2) (略)</u> <u>(3) (略)</u> <u>(4) (略)</u> <u>(5) (略)</u> <u>(6) (略)</u> <u>(7) 両替取引を行う目的等について合理的な理由があると認められない外国PEPとの取引。</u> <u>(8) 財産や取引の原資について合理的な理由があると認められない外国PEPとの取引。</u></p>

現 行	改 定 後
<u>(新設)</u> <u>(新設)</u>	<u>(9) 腐敗度が高いとされている国・地域の外国PEPとの取引。</u> <u>(10) 国連腐敗防止条約やOECD外国公務員贈賄防止条約等の腐敗防止に係る国際条約に署名・批准していない国・地域又は腐敗防止に係る国際条約に基づく活動に非協力的な国・地域に拠点を置く外国PEPとの取引。</u>